



## 3月弥生は卒業の月 笑顔の先にあるもの

校長 高山 直也

令和5年度が終わりを迎えようとしています。振り返れば、新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、学校の教育活動もほぼ完全な形で行えるようになった、最初の年度となりました。マスクを外して生活し、思い切り遊び、歌い、友達とおしゃべりし笑い合う、当たり前の学校生活が戻ったのは、実に令和元年度依頼4年ぶりでした。運動会での演技の掛け声、応援の声、音楽会での学年の歌声、全校合唱…、子供たちのはつらつとした明るい声が響き渡り、それを観る大人の我々も自然と笑顔になりました。



お寄せいただいた学校評価をはじめとした様々なアンケートでは、校長の経営方針や教職員の職務に対する前向き・ひた向きな努力に対して、高い評価をいただきました。また、二大行事や学校公開での学習・発表も、子供たちの様子を含めて高い評価をいただきました。しかし、普段の学習・生活指導の方法や、施設面の課題、児童のモラル、行事の取組み方等に対してご意見や改善案をいただくこともありました。改善できる範囲で早急に対応していくことはもちろんですが、保護者の皆様が、教職員を信頼し白金小を支えていただいていることも分かり、本当に有難いことだと感じました。



3月弥生の月は別れの月でもあります。112名の6年生はそれぞれの進路に向かって羽ばたいていきます。私は赴任したての4月当初、6年生の数人に笑顔で話し掛けられたことが忘れられません。新しい校長に対して身構えても不思議ではないのに、笑顔で質問攻め、他の日に他の6年生に会っても笑顔、笑顔…。笑顔で迎えてくれてどんなに緊張がほぐれたことか。そんな素敵な6年生が卒業していきます。毎朝正門で子供たちに笑顔であいさつしているのは、私が受けた温かい嬉しさを恩返ししているのかもしれない。

**笑顔は人を「和」ませ、気持ちを「和」らげ、いつしかそこには「和」ができる。**

旅立つ卒業生が、和をもって貴しとなし、和をもって世を平らかにし、人や社会に益を為す人材に育つことを願ってやみません。それは、白金小の教育目標「信頼と尊敬を得られる人間をみざす」ことに通じます。目立たないことでも、何かの役に立っている時、人は幸せを感じます。笑顔で皆も自分も幸せに。

保護者の皆様、地域の皆様、今年度の本校の教育活動に対し、様々にご支援ご協力をいただきましたこと、あらためて深く御礼申し上げます。さらなる高みへ向け、白金小学校は子供たちとさらに邁進していきます。今後ともよろしく願いいたします。